

SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

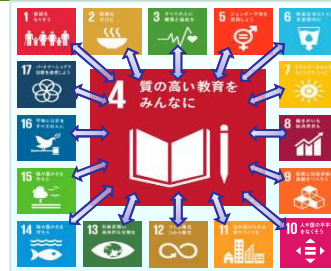
2019年度予算額(案):54百万円(新規)

SDGs達成の担い手を育む国内の教育現場における多様な教育活動(ESD)を実施・支援することで、担い手に必要な資質・能力の向上を図る。 【補助事業】

国内のニーズ

- ◆ 新学習指導要領で、持続可能な社会の創り手の育成が学校に求められる役割と明記。
→学校現場でのESD実践に対する支援ニーズの高まり。
- ◆ 教育振興基本計画や環境教育基本方針(H30.6閣議決定)にSDGs達成のための教育(ESD)の重要性が明記。

教育を通じたSDGsの達成!



国際的なニーズ

- ◆ 「ESDはすべてのSDGs実現の鍵である」
(2017国連決議)
- ◆ 「SDG4(質の高い教育)の達成の妨げとなっている要因の一つは、教育におけるESDの主流化が進んでいないことである」(2018 SDG-教育2030ステアリングコミッティ)
→「SDG4グローバル指標」(ESDが①カリキュラム、②教師教育、③学習評価において主流化されている度合)の達成度の向上が急務。

事業の柱

(1) カリキュラム等 開発・実践

(2) 教師教育の推進

(3) 教育(学習)効果 の評価と普及

事業趣旨

SDGs達成の視点を組み込んだカリキュラム、教材、地域プロジェクト等の開発や教育実践を行う。

SDGs達成の中核的な担い手となる教師の資質・能力の向上を図る。

ESDによる教育(学習)効果や学習者の変容を測る評価手法を開発・実践し、その普及を図る。

事業概要

- SDGs達成の視点を組み込んだカリキュラム、教材、プロジェクト等の開発や実施、及びその成果の全国的な発信。
- SDGsと地域課題解決・地方創生をテーマとする、民間企業と連携したプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)。

- 教育委員会や大学等と連携し、学校教師等を対象としたESD研修の実施、及びその成果のフォローアップと発信。
- 教育委員会が実施する教員養成課程学生や学校教師を対象とした中規模・大規模研修を活用したESD研修の実施。
- 教育委員会や教師養成機関(大学等)に対するESDの普及啓発、指導助言、ネットワーク構築等。

- 評価手法の開発と教育現場での実践(評価)、及び評価手法の汎用性の向上と教育関係者への普及。